

外国語教育

校長 野木 忠一

平成二十九年度がスタートして、早二ヶ月が過ぎました。学校では、居心地のよい学校づくりが着実に進んでいます。その結果、子どもたちは落ち着いて、知・徳・体の教育活動に励んでいます。今後も、保護者・地域の皆様のご協力をお願いいたします。

さて、学習指導要領の改訂に伴い、平成三十一年度から五・六年生の外国語活動が教科になり、外国語活動が三・四年生に新たに設けられます。三・四年生に設けられる外国語活動は、コミュニケーション能力の素地を養うことが目標であり、ALTの先生と学級担任で授業を行い、楽しみながら英語に親しみ、積極的に英語を使ってみることに重点になります。一方、五・六年生が行う教科としての外国語は、英語によるコミュニケーションの基礎を養うことが目標となります。よって、教科書を使用して授業を行います。授業内容も「聞く」「話す」「読む」「書く」と幅広くなります。外国語活動のように、慣れ親しむだけではなく、スキル的なことも取り入れ、学んだことを定着させる必要がでてきます。

都留市では、平成三十年度より先行実施することになっていきます。それに向けて、小学校外国語(英語)教育研究委員会を組織し、研究先進校の実践を参考にしながら、学校が混乱しないように、子どもたちに少しでもコミュニケーションの基礎を養うことができるように、準備をすすめていきたいと思えます。

このことに関して、不安なことや不明な点がありましたら、学校までご意見をお寄せ下さい。

